

2021年度 早稲田大学 社会科学部 数学

1

[解答]

(1) 解と係数の関係より,

$$\begin{aligned}
 a &= -(\alpha + \beta) \\
 &= -\left(\frac{\sin \theta}{1 + \cos \theta} + \frac{\sin \theta}{1 - \cos \theta}\right) \\
 &= -\frac{\sin \theta(1 - \cos \theta) + \sin \theta(1 + \cos \theta)}{1 - \cos^2 \theta} \\
 &= -\frac{2 \sin \theta}{\sin^2 \theta} \\
 &= -\frac{2}{\sin \theta} \qquad \dots\dots \textcircled{1}(\text{答})
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 b &= \alpha\beta \\
 &= \frac{\sin \theta}{1 + \cos \theta} \cdot \frac{\sin \theta}{1 - \cos \theta} \\
 &= \frac{\sin^2 \theta}{1 - \cos^2 \theta} \\
 &= \frac{\sin^2 \theta}{\sin^2 \theta} = 1 \qquad \dots\dots \textcircled{2}(\text{答})
 \end{aligned}$$

である.

$$\begin{aligned}
 (2) \quad f(x) &= x^2 + ax + b \\
 &= \left(x + \frac{a}{2}\right)^2 - \frac{a^2}{4} + b
 \end{aligned}$$

であるから, 頂点を (X, Y) とおくと,

$$X = -\frac{a}{2}, \quad Y = -\frac{a^2}{4} + b$$

であり, ①, ②を用いると,

$$X = \frac{1}{\sin \theta} \qquad \dots\dots \textcircled{3}, \quad Y = -\frac{1}{\sin^2 \theta} + 1 \qquad \dots\dots \textcircled{4}$$

と表される.

よって, 求める軌跡は,

$$\text{「}\textcircled{3} \text{ かつ } \textcircled{4} \text{ かつ } 0 < \theta < \pi \text{ を満たす } \theta \text{ が存在する}\text{」} \qquad \dots\dots \textcircled{A}$$

ような点 (X, Y) 全体の集合である.

③より,

$$\sin \theta = \frac{1}{X} \qquad \dots\dots \textcircled{3}'$$

を得て, $0 < \theta < \pi$ より $0 < \sin \theta \leq 1$ であることから, ③'を④とこれに代入し,

$$\textcircled{A} \iff Y = -X^2 + 1 \text{ かつ } 0 < \frac{1}{X} < 1$$

$$\iff Y = -X^2 + 1 \text{ かつ } X \geq 1$$

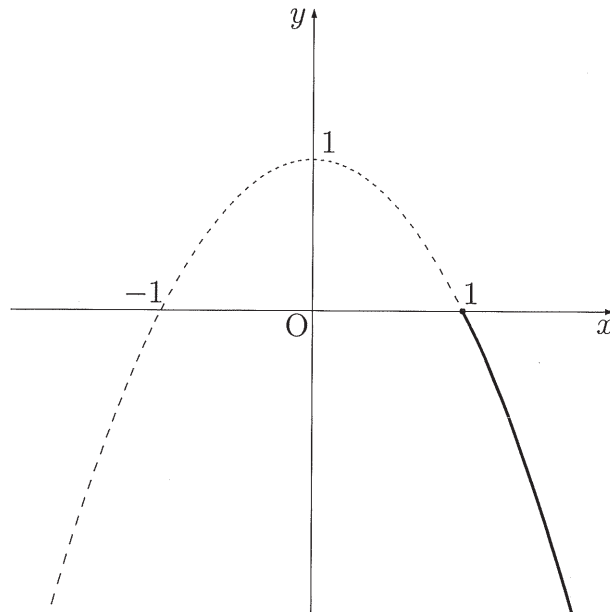
である。

以上より、求める軌跡は、

放物線 $y = -x^2 + 1$ の $x \geq 1$ を満たす部分
である。

……(答)

(注) グラフは下図のようになる。



(3) ①, ② を用いると、

$$\begin{aligned} \int_0^{2\sin\theta} (x^2 + ax + b) dx &= \left[\frac{1}{3}x^3 + \frac{a}{2}x^2 + bx \right]_0^{2\sin\theta} \\ &= \frac{8}{3} \sin^3 \theta + 2a \sin^2 \theta + 2b \sin \theta \\ &= \frac{8}{3} \sin^3 \theta + 2 \left(-\frac{2}{\sin \theta} \right) \sin^2 \theta + 2 \cdot 1 \cdot \sin \theta \\ &= \frac{8}{3} \sin^3 \theta - 2 \sin \theta \end{aligned}$$

であるから、

$$\begin{aligned} \int_0^{2\sin\theta} f(x) dx = 0 &\iff \sin \theta (4 \sin^2 \theta - 3) = 0 \\ &\iff \sin \theta = 0 \text{ または } \sin \theta = \pm \frac{\sqrt{3}}{2} \end{aligned}$$

である。

よって、 $0 < \theta < \pi$ のもとでは、求める θ の値は、

$$\theta = \frac{\pi}{3}, \frac{2}{3}\pi$$

……(答)

である。

2

[解答]

(1) まず“Fは線分AE上”より,

$$\begin{aligned}\vec{OF} &= (1-s)\vec{OA} + s\vec{OE} \\ &= (1-s)\vec{a} + \frac{2s}{3}\vec{b} \quad \dots\dots\dots ①\end{aligned}$$

となる実数 s が存在する.

次に, “Fは線分DB上”でもあるので,

$$\begin{aligned}\vec{OF} &= t\vec{OD} + (1-t)\vec{OB} \\ &= \frac{t}{2}\vec{a} + (1-t)\vec{b} \quad \dots\dots\dots ②\end{aligned}$$

となる実数 t が存在する.

ここで, \vec{a} と \vec{b} は三角形の二辺をなすので, ①と②より,

$$\begin{cases} 1-s = \frac{t}{2} \\ \frac{2s}{3} = 1-t \end{cases} \quad \therefore \begin{cases} s = \frac{3}{4} \\ t = \frac{1}{2} \end{cases}$$

これらを① (または②) に代入して,

$$\vec{OF} = \frac{1}{4}\vec{a} + \frac{1}{2}\vec{b} \quad \dots\dots\dots (\text{答})$$

と表される.

(2) (1)の結果を用いると,

$$\begin{aligned}\vec{a} \cdot \vec{OF} = \vec{b} \cdot \vec{OF} &\Leftrightarrow \vec{a} \cdot \left(\frac{1}{4}\vec{a} + \frac{1}{2}\vec{b} \right) = \vec{b} \cdot \left(\frac{1}{4}\vec{a} + \frac{1}{2}\vec{b} \right) \\ &\Leftrightarrow |\vec{a}|^2 + 2\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{a} \cdot \vec{b} + 2|\vec{b}|^2 \\ &\Leftrightarrow a^2 + 2\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{a} \cdot \vec{b} + 2b^2\end{aligned}$$

であるから, これを $\vec{a} \cdot \vec{b}$ について解き,

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = -a^2 + 2b^2 \quad \dots\dots\dots ③(\text{答})$$

と表される.

(3) $\angle AOB = \theta$ とおくと, $b = 1$ のとき, ③より,

$$a \cdot 1 \cdot \cos \theta = -a^2 + 2, \text{ すなわち, } a \cos \theta = -a^2 + 2 \quad \dots\dots\dots ④$$

を得る.

よって, a のとり得る値の範囲は, ③のもとで $\triangle OAB$ が存在する条件から得られ, それは,

$$\text{「} ③ \text{かつ } 0 < \theta < \pi \text{ を満たす } \theta \text{ が存在する} \text{」} \quad \dots\dots\dots \text{①}$$

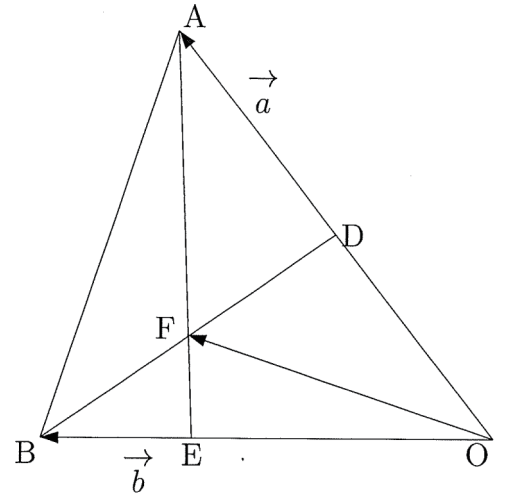
ような正の数 a の条件として得られる.

ここで, $a > 0$ のもとでは,

$$\cos \theta = -a + \frac{2}{a} \quad \dots\dots\dots ④'$$

であり, $0 < \theta < \pi$ より $-1 < \cos \theta < 1$ であるから, ④' を代入し,

$$\text{①} \Leftrightarrow -1 < -a + \frac{2}{a} < 1$$



$$\begin{aligned} &\Leftrightarrow -a < -a^2 + 2 < a \quad (\because a > 0) \\ &\Leftrightarrow \begin{cases} a^2 - a - 2 < 0 \\ a^2 + a - 2 > 0 \end{cases} \\ &\Leftrightarrow \begin{cases} (a+1)(a-2) < 0 \\ (a+2)(a-1) > 0 \end{cases} \\ &\Leftrightarrow -1 < a < 2 \text{ かつ } "a < -2 \text{ または } a > 1" \\ &\Leftrightarrow 1 < a < 2 \end{aligned}$$

.....⑤(答)

である.

(4) $b=1$ のとき, ③を用い,

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{a}|^2 |\vec{b}|^2 - (\vec{a} \cdot \vec{b})^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{a^2 - (-a^2 + 2)^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{-a^2 + 5a^2 - 4} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{-\left(a^2 - \frac{5}{2}\right)^2 + \frac{9}{4}} \end{aligned}$$

.....⑥

と表される.

⑤のもとで⑥の最大値を求めればよいから,

$$a^2 = \frac{5}{2}, \text{ すなわち, } a = \sqrt{\frac{5}{2}} = \frac{\sqrt{10}}{2} \quad (\because \text{⑤})$$

.....(答)

のときに, S は最大値

$$\frac{1}{2} \sqrt{\frac{9}{4}} = \frac{3}{4}$$

.....(答)

をとる.

(注1) (1)はメネラウスの定理より,

$$\frac{OA}{AD} \cdot \frac{DF}{FB} \cdot \frac{BE}{EO} = 1 \quad \therefore \frac{2}{1} \cdot \frac{DF}{FB} \cdot \frac{1}{2} = 1$$

であるから, $DF:FB=1:1$ でありこれより,

$$\vec{OF} = \frac{1}{2} \vec{OD} + \frac{1}{2} \vec{OB}, \text{ つまり, } \vec{OF} = \frac{1}{4} \vec{a} + \frac{1}{2} \vec{b}$$

と求めることもできる.

(注2) $\vec{a} \cdot \vec{OF} = \vec{b} \cdot \vec{OF}$ より, $(\vec{b} - \vec{a}) \cdot \vec{OF} = 0$, つまり, $AB \perp OF$ である. この事実に基づいて(3), (4)を初等幾何的に解決することもできる.

3

[解答]

k 進法で $2021_{(k)}$ と表される整数 N は、 k を用いると

$$N = 2k^3 + 2k + 1 \quad \dots\dots\dots ①$$

と表される.

(1) ①と $k-1$ を k の整式とみて割り算することにより,

$$N = (k-1)(2k^2 + 2k + 4) + 5$$

が k によらず成り立ち, これを変形すると,

$$5 = N - (k-1)(2k^2 + 2k + 4) \quad \dots\dots\dots ②$$

を得る.

よって, N が $k-1$ で割り切れるとき, ②により,

$$\text{「}5\text{も}k-1\text{で割り切れる}」 \quad \dots\dots\dots ③$$

から, ③と k が3以上の整数であることにより, 求める k の値は

$$k-1=5, \text{つまり, } k=6 \quad \dots\dots\dots (\text{答})$$

である.

(2) 整数 N と整数 $k+1$ (≥ 4)に対し,

$$N = (k+1)Q + R \text{ かつ } 0 \leq R < k+1 \quad \dots\dots\dots ④$$

となる整数 Q と R がただ一組存在する. このとき, 求める余りは R である.

一方, ①と $k+1$ を k の整式とみて割り算することにより,

$$N = (k+1)(2k^2 - 2k + 4) - 3$$

が k によらず成り立ち, これを変形すると,

$$N = (k+1)(2k^2 - 2k + 3) + (k+1) - 3$$

すなわち,

$$N = (k+1)(2k^2 - 2k + 3) + k - 2 \quad \dots\dots\dots ⑤$$

を得る.

$k \geq 3$ のもとでは, $0 \leq k-2 < k+1$ であるから, ④と⑤により, 求める余りは,

$$k-2 \quad \dots\dots\dots (\text{答})$$

である.

(3) N を $k+2$ (≥ 5)で割ったときの余りが1となる条件は,

$$N = (k+2)M + 1 \quad \dots\dots\dots ⑥$$

となる整数 M が存在することである.

一方, ①と $k+2$ を k の整式とみて割り算することにより,

$$N = (k+2)(2k^2 - 4k + 10) - 19 \quad \dots\dots\dots ⑦$$

が k によらず成り立つから, ⑦を⑥に代入すると,

$$(k+2)(2k^2 - 4k + 10) - 19 = (k+2)M + 1$$

すなわち,

$$(k+2)(2k^2 - 4k + 10 - M) = 20 \quad \dots\dots\dots ⑧$$

を得る.

よって, ⑥を満たす整数 M が存在する条件は, ⑧を満たす整数 M が存在することで, それは⑧により,

$$\text{「}k+2(\geq 5)\text{が}20\text{の約数となる}」$$

ことであるから, 求める k の値は, $k+2 \geq 5$ に注意すると,

$$k+2 = 5, 10, 20, \text{つまり, } k = 3, 8, 18 \quad \dots\dots\dots (\text{答})$$

がすべてである.

(注) $k = 3$ のときは $M = 12$ が, $k = 8$ のときは $M = 104$ が, $k = 18$ のときは $M = 261$ が存在する.